

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	統計学			担当講師	佐用 寛文		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	理学療法の分野で登場する統計手法を理解し、卒業研究および理学療法士として研究する際、自ら使用できるようにする。						
到達目標	1. 統計手法の基礎を理解できる 2. 統計処理をコンピュータを用いて処理ができる 3. 文献等で使用されている統計の意味が理解できる						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	統計資料の整理						
2	度数分布の特徴						
3	確率と確率分布						
4	標本分布						
5	回帰と相関						
6	推定						
7	検定法①						
8	検定法②						
9	検定法③						
10	分散分布						
11	ノンパラメトリック検定						
12	標本調査法						
13	演習問題①						
14	演習問題②						
15	筆記試験						
評価方法	筆記試験にて評価する						
教科書	ゼロから学ぶ医薬統計教室 メジカルビュー社						
参考書	なし						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	情報処理技術論			担当講師	武藤 久司・阿部 国和		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	情報処理の技術を学び、収集した多量の情報を目的に応じた形に加工するための方法を学ぶ。また、コンピュータを駆使した文章作成方法を学ぶ。						
到達目標	リハビリテーション過程や研究などで得られた情報を有効に活用できるようになるために、以下の目標を掲げる。 ①情報の種類に応じた分類・整理ができる。 ②情報の特徴にあわせた演算方法が選択できる。 ③コンピュータを使用して情報の整理ができる。 ④整理した情報を元に、コンピュータを使用して文書の作成ができる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	情報とは・パソコン基本操作						
2	プレゼンテーション① パワーポイントを用いたプレゼンテーション①						
3	プレゼンテーション① パワーポイントを用いたプレゼンテーション②						
4	プレゼンテーション② パワーポイントを用いたプレゼンテーション③						
5	プレゼンテーション② パワーポイントを用いたプレゼンテーション④						
6	プレゼンテーション② パワーポイントを用いたプレゼンテーション⑤						
7	情報の文書化・ワードを用いた処理						
8	情報処理 エクセルを用いた情報処理（統計処理）						
9	情報と著作権①						
10	情報と著作権②						
11	情報とSNS①						
12	情報とSNS②						
13	個人情報①						
14	個人情報②						
15	メディカルオンライン						
評価方法	出席、レポート、発表等を加味し総合的に評価する						
教科書	なし						
参考書	なし						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	心理学			担当講師	松井 進		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験	大学教員としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	<p>「なぜ人はその時、その場面でそのような行動をしたのか？」という問いに答えるのが心理学であるとも言われる。意識の学としてはじまった心理学は、行動の学として発展している。行動の特徴や性質を究明したい。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の歴史について説明できる。 2. 知覚や認知について説明できる。 3. 学習(古典的条件付けや古典的条件付け)について説明できる。 4. 性格について説明できる。 5. 性格検査を把握し、実施できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	心理学の歴史						
2	心理学研究法						
3	感覚						
4	知覚						
5	知覚						
6	認知						
7	認知(記憶)						
8	認知(記憶)						
9	認知(思考)						
10	認知(思考)						
11	学習(古典的条件付け)						
12	学習(オペラント条件付け)						
13	性格(類型論と特性論)						
14	性格(性格検査/バウムテストの実施)						
15	筆記試験						
評価方法	筆記試験にて評価する。						
教科書	系統看護学講座「心理学」 医学書院						
参考書	なし						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	外国語			担当講師	君塚 葉子		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験	大学教員としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	医療の国際化に伴い、外国人との交流や英文献の抄読の機会は、今後さらに拡大するであろう。その際のコミュニケーションのとり方や文献読解能力を養う。						
到達目標	1. 英語によるコミュニケーションのとり方を理解する。 2. 英文献読解に必要な知識・技術が習得できる。 3. 臨床における医学英語の意味を理解できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション						
2	日常英会話1						
3	日常英会話2						
4	日常英会話3						
5	日常英会話4						
6	会話練習						
7	会話練習						
8	医学英語1						
9	医学英語2						
10	医学英語3						
11	医学英語4						
12	医学英語5						
13	会話練習						
14	会話練習						
15	筆記試験						
評価方法	筆記試験にて評価する。						
教科書	A Healthy Mind, A Healthy Body 朝日出版						
参考書	なし						
備 考	辞書は必携						

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	基礎物理学			担当講師	永尾 敬一		
分 野	基礎	授業方法	講義	実務経験	大学教員としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	安全・安楽な介入技術を習得するためには、理学療法と関係深い物理現象や、実際に使用する医療機器類を想定した物理学的な理論や技法の理解が求められる。本科目では、理学療法に関連する物理現象の理論と、介入技術における原理・原則を学んでいく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活や医療・介護の分野における物理的現象を理解する。 2. 介入技術における原理・原則を物理的側面から理解する。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	質点の力学-体位変換の原理（1） 速度・加速度・ニュートンの法則						
2	質点の力学-体位変換の原理（2） 力学的エネルギー・摩擦力						
3	剛体の力学（1） トルク・釣り合い・重心						
4	剛体の力学（2） 重心と安定性・看護の場でのトルク						
5	圧力（1） 気圧・血圧						
6	圧力（2） 酸素ポンプ・低圧持続吸引						
7	電気（1） 電気の基本						
8	電気（2） 感電						
9	熱現象（1） 熱膨張・比熱と潜熱						
10	熱現象（2） 熱と仕事・熱の移動と保温						
11	音（1） 音波・音の強さと大きさ						
12	音（2） ドップラー・超音波						
13	光（1） 光の性質・全反射						
14	光（2） レンズと眼鏡・紫外線・赤外線						
15	筆記試験						
評価方法	筆記試験にて評価する。						
教科書	新体系 看護学全書 基礎科目「物理学」 メヂカルフレンド社						
参考書	なし						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	コミュニケーション論			担当講師	山神翔太、加藤木 和子		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	<p>コミュニケーションは、私たち人間が他者と関わる時に必要とされる能力である。医療・福祉の分野では、特にコミュニケーション能力が求められている。お互いの考えを認知・共感・理解し、有効な関係を築くコミュニケーション能力を養う。また、対人関係を営む上でのマナー・礼節・モラルを修得する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の相互関係を成立させるコミュニケーション能力について説明できる。 2. 良好な人間関係を作る条件や要因を考察できる。 3. 他者の意見を傾聴できる。 4. 理解した結論に基づいた行動ができる。 5. 社会のルール、接遇を理解し行動できる。 6. ビジネスレター、お礼状などの書き方を説明できる。 7. ロールプレイにて場面状況に合わせた対応を実践できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション						
2	ビジネスマナーの基礎、心のあり方						
3	スピーチの組み立て方と傾聴、ことばの力、コミュニケーション						
4	自己紹介のマナー、接遇、受付対応、名刺交換のマナー						
5	ビジネスレターの表・裏の表現、注意点と特徴						
6	葉書・レターの書き方、選択、お礼状						
7	異文化コミュニケーション、仕事・社会での交流						
8	自己アピール						
9	専門性に触れる						
10	クラスメイトとコミュニケーションを図る						
11	医療・福祉におけるコミュニケーション ロールプレイ						
12	医療・福祉におけるコミュニケーション ロールプレイ						
13	筆記試験						
14	実技試験						
15	実技試験						
評価方法	授業参加度、課題、筆記・実技試験等を加味し総合的に評価する						
教科書	配付資料						
参考書	なし						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	社会学			担当講師	小笠原 尚宏		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験	大学教員としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	<p>社会という現象を実感として知る。 主に次の2つのテーマをとりあげ、それぞれ具体的な事例に即して考えていく。社会学の基本的な考え方や概念、理論についても紹介する。</p> <p>1. 「働く」ということ（ルール論・職業論） 2. 「私である」ということ（自己論）</p>						
到達目標	<p>1. 企業組織と個人との関わりを説明できる。 2. 組織の中で期待されるふるまいとは何かを説明できる。 3. 所属する組織の規模・雇用形態・性別によって異なる人の職業生活を説明できる。 4. 現代日本社会の特徴と将来の展望を説明できる。 5. 社会的自己の形成のしくみを考察できる。 6. 「私らしさ」とは何かを説明できる。 7. 社会的自己の形成のメカニズムについて説明できる。 8. さまざまな「私」を許容する社会について説明できる。</p>						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	社会とは何か、社会と個人、社会学の課題						
2	社会関係、社会化						
3	類型化、社会集団論、家族の家族定義						
4	核家族論、家族機能と外部化、家族問題						
5	近代家族論、55年後の社会と私を考える						
6	ライフコース、ジェンダー						
7	産業、労働：産業化、雇用とその変化、消費生活をめぐる動向						
8	筆記試験						
評価方法	筆記試験にて評価をする						
教科書	大学生のための社会学入門 晃洋書房						
参考書	なし						
備 考							

2020年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目	<input type="checkbox"/>		
科目名	倫理学			担当講師	町田 一		
分野	基礎	授業方法	講義	実務経験	大学教員としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	16 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	<p>「学問を学ぶ」これには、二つの意味がある。一つは、学ぶ人自身がその学問を自ら「する」ことができるようになること。もう一つの意味は、その学問について語れるようになること。その学問で使われる言葉（術語）の意味を覚えて使えるようになることや、議論されている内容について語れるようになることと考えます。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の尊厳について考察できる。 2. いのちの教育の必要性を説明できる。 3. 生物と共存するための道を考察できる。 4. 患者の権利を説明できる。 5. 患者の権利運動の歴史的背景を説明できる。 6. 自己決定権について考察できる。 7. 脳死の判定基準を説明できる。 8. 脳死と植物状態を区別して説明できる。 9. 安楽死と尊厳死と自然死の違いを説明できる。 						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	倫理学とは、カントの定言命法						
2	功利主義、アリストテレスの中庸						
3	心情倫理の難点、結果倫理の難点						
4	パーソン論						
5	生命の始まりをめぐる問題、中絶擁護の意見						
6	安楽死						
7	人間中心主義から脱人間中心主義へ						
8	筆記試験						
評価方法	筆記試験にて評価する						
教科書	配付資料						
参考書	なし						
備 考							